

Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

No. 5

平成25年8月21日

編集・発行

新潟市教育委員会

学校支援課 広報担当

夏季休業明けの子どもの観察と対応のポイント

まもなく夏季休業が終わります。久しぶりの学校生活をむかえるにあたり、少し不安な気持ちになっている子どもも多いと思われます。

長い夏休みをどう過ごしたかによって、子どもたちは大きく変化します。休み明けの子どもたちの様子が、これまでと見た目や雰囲気が一変していることも珍しくありません。休み中の生活から抜け出すことができず、生活の目標を失ってしまうことで、非行に走ったり、不登校に陥ったりするなどの可能性が高くなります。

子どもたちの変化を見逃さず、子どもたちに休み明けの学校生活に見通しをもたせ、意欲とやる気を喚起するかかわりを大切をお願いします。

1 情報を共有する

休み明けの欠席には特に注意を！

「早い対応」が「適切・有効な対応」につながります。できるだけ早いうちに生徒指導部会などで、気になった子どもへの夏季休業中の支援報告や始業日の登校状況についての情報交換を行い、心配な欠席者・遅刻者への組織的な対応をすぐにとるようにお願いします。

2 子どもの様子を観察チェック

右の表は、休み明けに見られる子どもの変化を示すサインをまとめたものです。生活習慣の乱れは程度の差こそあれ、多くの子どもに見られます。校門でのあいさつ運動などの取組で新たな生活への意識と意欲を高めつつ、子どもたちの様子を複数の目で確認することが重要です。

また、事務職員、用務員、調理員とも連携するなど、様々な場面の子どもの様子を組織的にとらえていく体制づくりをお願いします。

* 次の点をチェックしてみましょう

① 生活リズム	<input type="checkbox"/> 始業日の登校 <input type="checkbox"/> 理由なく休む <input type="checkbox"/> 登校しぶりがある <input type="checkbox"/> 遅刻が多くなった <input type="checkbox"/> 授業中にボーとしている <input type="checkbox"/> 授業中に寝ている
② 表情・行動	<input type="checkbox"/> 沈んだ表情が見られる <input type="checkbox"/> 教師のそばにいたがる <input type="checkbox"/> 言葉遣いが乱暴になった <input type="checkbox"/> 自傷行為が見られる <input type="checkbox"/> 保健室によく行く <input type="checkbox"/> 授業に集中できない <input type="checkbox"/> 授業中に抜け出す <input type="checkbox"/> 宿題をしてこなくなる
③ 服装・持ち物	<input type="checkbox"/> 忘れ物が多くなる <input type="checkbox"/> 提出物を出さなくなる <input type="checkbox"/> 不要なものを持ってくる <input type="checkbox"/> 髪の毛を染めている <input type="checkbox"/> 服装や持ち物が華美になる <input type="checkbox"/> 服装が乱れている <input type="checkbox"/> 服装が清潔でない (汚れている, 洗濯されていない)
④ 人間関係	<input type="checkbox"/> 仲よしグループが変わった <input type="checkbox"/> 教師に反抗的になる <input type="checkbox"/> クラスで孤立している <input type="checkbox"/> 部活動をサボる <input type="checkbox"/> いじめがある

自校の不登校の実態をつかむ

子どもたちは様々な不安や悩みを抱えながら学校生活を送っていることがあります。その不安や悩みを自分の力で解決できないようなときに、子どもは誰かに助けを求めようとして、周りに対して何らかのサインを発します。

教師や保護者がそのサインに気付かないか、気付いていても対応が遅れたりすると、子どもは学校への回避感情を強め、登校することに苦痛を感じ、結果として不登校になることも十分に考えられます。

夏休みの後、不登校の子どもがでないように、その兆候を早期に発見し、早期に対応するようにお願いします。

1 誰に対してもサインを発している訳ではありません

サインを発する子どもにとって、相手は誰でもよい訳ではありません。この人ならば受け止めてくれるのではないか、この人に受け止めてほしいなどの意識が一方的にはたらくことが考えられます。そのため、サインを発する子どもの思いが受け手に届きにくいことも考えられます。

2 サインは、発信者の不安な心理から、微妙な形で示されます

不安な心理から発せられるサインは子どもによって様々です。わざと困らせるようなことをする場合もありますし、妙に明るく振る舞ったりする場合があります。今までとは違う姿を見たり感じたりしたときは、自分だけに収めず周囲の教師等と情報を共有し合うことが大切です。

3 サインは、「見ればわかる」ものではありません

子どもの話を「聞く」と「聴く」ことが大きく違うように、変化をサインとしてキャッチするためには、本人の微妙な変化に気付くことができるように、日ごろから、地道で温かい観察が不可欠です。

早期対応のポイント



早期対応が早期解決につながります



- 温かい言葉がけなどを行い、受容的なかわりを大切にする。
- 教育相談を行い、サインの背景にある本人の心情や気持ちを受容し、理解するように努める。
- 学級内における人間関係等について再点検を行うとともに、安心できる雰囲気学の学級経営に努める。
- 必要に応じて、保護者との教育相談を行い、保護者との連携に努める。
- 学校や家庭等のできる援助・指導を立案し、実行する。また、学級や学校の共通の課題としてとらえ、学級・学校全体での取組も検討する。